

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 公益財団法人 山本能楽堂 事務局長 御名前 山本 佳誌枝 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

- **世界における日本の伝統芸能や生活文化のスタンダード化と日本国内における再評価**
  - ①関西は日本の歴史と文化の宝庫であり、伝統芸能や生活文化の発祥の地でもある。その魅力を世界の人々に向けて発信し、日本文化への憧憬の念を抱かせること。
  - ②日本の伝統芸能や生活文化の中に含まれている日本人の美意識や価値観、ものの考え方を世界に発信し、伝え、理解を深める機会が創出されること。
  - ③万博は、日本文化や価値観が世界の人々から共感され、広がる大きなチャンスであり、例えば空手や相撲のように、あらゆる日本文化が世界的に脚光を浴びてスタンダード化されることで、世界における日本のプレゼンスが高まり、日本の経済成長も見込むことができる。
  - ④日本国内でも、伝統芸能や生活文化の素晴らしさが再評価され、継承されること。
  - ⑤SDGs達成に向け伝統芸能が活用され、日本文化の奥行きが深さが発信されること。
- **1970年万博の「お祭り広場」のレガシーの継承～人類の対話のプラットフォームの構築**  
グローバル化がすすみ、ボーダレスとなった現代社会では、万博において、もはや国と国とが競いあうのではなく、個人が主体になっていくべきではないか。個人同士が、人種、ジェンダー、宗教等を超えフラットな関係になれる場を構築することによって、対話が生まれ、多様性への理解がすすみ、世界的なコミュニケーションが生まれ世界平和へとつながる。
- **SDGsの推進とポスト2030に向けた提言**  
あらゆるバリアーを超えた対話が行われ、相互理解を深めることで、持続可能な社会の達成のためのポスト2030の方向性が大阪・関西万博を契機に顕在化することを期待する。
- **「世界が注目するこれからの日本をどう伝えるか？」がきちんと見直され、日本の特異性、特質性が生んだ魅力ある日本が世界に発信されること**  
世界の中で日本をどう伝えるかがきちんと整理され戦略的に正しく強く発信されること。
- **バリアフリー、ユニバーサルデザインなどによる社会の機能性・利便性の向上**  
あらゆる人々にやさしい社会の実現。
- **先進国の少子高齢化問題、途上国の人口爆発問題の解決**  
国を超え、解決に向けた対話を行うことで、世界の人々が世界の問題を自分事として捉え、解決に向けて共感し、同じ問題意識を共有する。
- **子ども達や若年層が楽しむことができ、次代を担う子ども達にとって将来的に意味ある万博**  
子ども達が成長していく中で将来に向けた希望や夢を持つためのきっかけの場となること。
- **女性の活躍が推進され、女性の視点を取り入れられ女性ならではのパワーが発揮されること。**  
若い女性たちも含め女性活躍の場が広がり、万博を契機として、世界的な女性のネットワークが生まれ、新たな対話が行われること。
- **アーティストによる社会の問題提起、問題解決に向けた表現や意識の活用**
- **開催地である関西を中心に様々な企業、各種団体、NPOが共に発展し経済が活性化すること**

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

- **日本の伝統芸能や生活文化の素晴らしさを見せる。日本文化は自然と調和する平和のための文化であることを発信する。SDGsの達成に向けた能楽の上演**

(伝統芸能・文化が本来持つ人間力の発信)

能楽は人間が本来持っている能力、すなわち「人間力」だけで成り立つ芸能である。電力やデジタルの力がなくても人の力だけで公演が成立する。文楽や歌舞伎などの伝統芸能や茶道やいけばななどの生活文化も同様である。「人間力」によって培われてきたプリミティブな伝統芸能の素晴らしさを見せることで、世界が驚き、共感を呼ぶことができる。

(最先端技術のテクノロジーと伝統芸能・文化の融合)

最新のテクノロジーと伝統芸能・文化の融合を見せることで、日本の伝統芸能・文化に革新をもたらし、新たな魅力創出につなげることが可能と思う。ただし細心の注意も必要である。

(SDGsの達成に向けた日本文化の発信)

当財団では2009年に大阪で官民一体となって開催された「水都大阪2009」で、水の環境保全をテーマに子ども達と一緒に環境問題について考え「水を大切にする気持ち」で世界を一つにつなげる新作能「水の輪」を制作した。それ以降国内外で20回再演を繰り返し、SDGsの14のゴールの達成に向け文化の力で取り組んできた。本年9月には、欧州文化首都となったブルガリアのプロブディフで、15の「森の豊かさを守る」ための新作能「オルフェウス」を初演する予定である。SDGsの達成に向けて、日本の伝統芸能の力で貢献したい。

(世界平和のための芸能の発信)

能楽は、天下泰平・五穀豊穡を祝うための芸能であり、平和への祈りがこめられた芸能である。

- **文化や人種の違うあらゆる人々に向けた日本の伝統芸能や生活文化の体験による共感**

体験や経験をしてこそ、日本の伝統芸能や生活文化への理解・関心は深まる。その奥に潜む精神性や様式美をきちんと伝えることが相互理解を深める上で有効であり、必須である。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

- 夢洲会場以外に、千里万博公園及び関西一円の各都道府県にサテライト会場を設け、関西広域で面として万博を開催し、関西の多様性を見せ、その魅力を発信して頂ければと思う。
- 千里万博公園が100年かけて取り組んでいる「自然再生」の取組を、万博終了後、夢洲でも継続して取り組んでほしい。SDGsの達成に向け、環境問題についても世界の人々が対話するプラットフォームを万博で構築できるような会場計画を期待する。
- 大阪は、ヴェニスやアムステルダムに並ぶ「水の都」として知られている。世界的にも珍しい口の字型の水の回廊を有しており、その利点を活かし、大阪の水辺からダイレクトに夢洲に船で行き来ができ、神戸等周辺地域からも海を使用したアクセスを整備してほしい。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- **世界平和に向けた万博の開催**

万博の大阪での開催が2度目であることから、1970年の万博のレガシーも引き継ぎ発展させることも大切。「お祭り広場」は西山卯三 京大教授の「会場に集まった人たちが、参加した喜びをともにわかちあう場を作るべきだ」という提唱から生まれた。本来は相反する「お祭り」(陽気で楽しく人々の心をつなぎ共同体として意識を強めるもの)と「広場」(市民が自由に議論する哲学的な場)が結びつき、連帯感と交歓が生み出される場となった。50年経った現代社会でもこのレガシーを継承し、世界の人々が個人レベルの対話によって相互理解を深め、平和への思いを共有し、その種が世界各国に持ち帰られ、まかれ、育まれることで、世界平和につなげることが何より大切だ。万博を開催する意義がそこにあると考える。